

観測点情報の整理

京都大学防災研究所 技術室

小松 信太郎

1. はじめに

京都大学防災研究所附属地震予知研究センター宮崎観測所では、地震、地殻変動、GNSS など様々な観測をしている。その多くは、数十年にも及び、データを記録し続けており、今日に至るまで観測機器の更新や故障、周辺の環境変化など観測点を取り巻く状況が刻一刻と変化してきた。また近年は、観測開始時から観測に携わっていた教職員の退職にともない、観測点維持管理の担当者が交代するといった、人の変化も生まれている。このような状況の中では、観測点や観測機器の経歴、作業記録など、観測に関する様々な情報を適切に引継ぎ共有することが重要となってくる。しかし、これまでは特定の関係者だけが観測点を維持管理していたため、情報は引継ぎや共有に適した形で管理されていなかった。

そこで今回、宮崎観測所が管理している観測点・観測室の諸情報を正確に把握し、それらを共有化するための作業を実施した。本稿では、その具体的な内容を紹介するとともに、将来にわたって問題を改善するための方針について記述する。

2. 状況確認と整合性

まず初めに、退職した教職員から引き継いだ資料や観測所内に保管されている資料と現在の観測点の状況の整合性を確認することにした。トラブルや不具合が発生した際に、重要となる以下の点に焦点を絞り、実際に現地（観測点、観測室）へ行き、確認した。

- ・ 観測機器の情報（使用機器、型番など）
- ・ データの接続状況（端子台からデータロガーへの接続など）
- ・ 通信設定（ルータ、IP アドレスなど）

あわせて、観測機器の劣化や不具合が発生しそうな箇所の点検と調査を実施した。また、周辺の状況や観測機器などの写真を撮り、記録として残すことにした。写真を残しておくことで、後日、分からないことがあれば、現地へ行かなくても確認することができる。また、将来、当時の状況や様子を知るための有効な手段として活用することもできる。

3. 情報の修正と整理

現地にて確認した内容と過去の資料を確認し、相違があれば現地で確認した内容に情報を修正した。また、必要であれば新たに資料も作成した。以下に今回修正及び、新たに作成した資料を示す。

- ・ 基礎情報（住所、位置、通信、地権者、設置観測機器）
- ・ 観測機器の感度
- ・ 観測データの接続情報（配線、データロガーへの接続など）

4. 情報の管理&共有化

整理した情報や資料は、以下の方法で管理することにした。

- ①電子データ（エクセル、ワード、メモ帳など）を所内の教職員のみがアクセス可能なハードディスク、共有フォルダに保管
- ②印刷した資料を紙ファイルにまとめ、保管場所を決める（専用の書庫）

観測点の多くは、ネットワーク環境が無いため、現地で電子データを確認することができない。そのため、印刷した資料を紙ファイルにまとめ、観測点に行く際に資料を持参できるようにした。また、現地で作業した内容を記録する作業記録も紙ファイルにまとめた。

5. 周知とルールの徹底

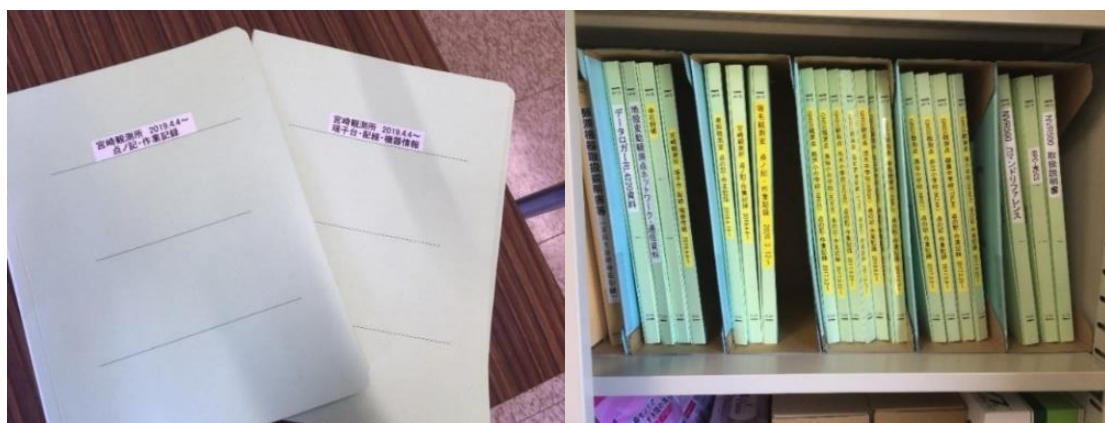
今回整理した資料と現地の状況との整合性を保つことが課題である。また、状況が変化した場合に、きちんと資料（電子データ）を更新する必要もある。情報の更新をしつつ、整合性を保ち、管理するために、いくつかのルールを決め、所内の教職員に対して周知と徹底をお願いした。以下に取り決めたルールを示す。

- ・観測点へ行き作業する際は、紙ファイルを持参する
- ・必ず作業記録を記入する（重要）
- ・帰所後、電子データの情報の更新（更新後は、印刷し、紙ファイルにまとめる）

ルールの中で、重要となるのが、作業記録（紙ファイル）の存在である。万が一、電子データが更新されておらず、現地の状況と相違があったとしても、作業記録に記入しておけば過去の作業状況からどちらの情報が正しいか確認、判断することが可能である。

6. 今後の展望

正確な情報をすぐに確認できること、そして情報の共有化は、現在だけでなく、将来に渡り大変重要なことと考える。今後は、観測点に関することだけでなく、施設の維持管理の状況など、様々な事象で情報の整理と共有化を進めることを考えている。



写真① 紙ファイル（資料&作業記録）